

2025年度 公開FD研修会 「大学教育改革におけるIRの活用」

① 「本学における学修調査報告について」

産業能率大学教育事業推進委員会 副委員長
情報マネジメント学部教授 小野田 哲弥

② 「IRの実行フェーズへの移行と FDプロセスマネジメント」

産業能率大学教育開発研究所長
経営学部教授 松尾 尚

産業能率大学 教育開発研究所主催 2025年度 公開FD研修会 テーマ：「大学教育改革におけるIRの活用」

大学におけるIR（Institutional Research：インスティテューショナル・リサーチ）は、これからの大学経営や教育改善を行っていくうえで、重要な取り組みとして注目されています。授業アンケートなど、大学内におけるデータの蓄積と分析、さらにそれらに基づいた改善策の検討と実行につなげる必要があります。

そこで、今回の公開FD研修会では、知の総和答申で示された今後の認証評価の方向性や共愛学園前橋国際大学における学修成果の可視化への取り組みについて、大森昭生学長にご講演いただきます。大森学長は、中央教育審議会において大学分科会、同高等教育の在り方に関する特別部会（副部会長）、教育振興基本計画部会等の委員として幅広く活躍です。加えて、本学の取り組み（学修調査、IRの実行フェーズへの移行とFDマネジメント）について報告いたします。

皆様のご参加を、心からお待ち申し上げます。

◇日時：2026年2月26日（木）15:00～17:00（受付14:30～）

◇開催方法：対面（会場：産業能率大学自由が丘キャンパス IVYホール）+Zoomによりハイブリッド開催（※）

※ただし、諸事情により、対面を中止・Zoom開催のみに変更する場合は、2026年2月20日（金）迄に申込時に回答されたメールアドレスにご連絡させていただきます。

◇定員：対面120名、Zoom150名（先着順）

◇対象者：教育関係者（教員・職員等）、企業関係者、本学の学び・授業改善取り組みに関心のある方

◇参加費：無料

◇プログラム：

15:00 - 15:10	主催者挨拶・公開FD研修会の趣旨 教育開発研究所長・経営学部教授 松尾 尚
15:10 - 15:40	基調講演 「学修者本位の教学マネジメントに向けて ～共愛学園前橋国際大学における学修成果可視化の取組を事例に～」 共愛学園前橋国際大学 学長 大森 昭生氏
15:40 - 16:10	報告（本学の取り組み） ①「本学における学修調査報告について」 教育事業推進委員会 副委員長・情報マネジメント学部教授 小野田 哲弥 ②「IRの実行フェーズへの移行とFDプロセスマネジメント」 教育開発研究所長・経営学部教授 松尾 尚
16:10 - 16:25	休憩
16:25 - 16:55	パネルディスカッション・質疑応答 パネラー：共愛学園前橋国際大学 学長 大森 昭生氏 本学 学長補佐・経営学部長 岩井 善弘 本学 教育開発研究所長・経営学部教授 松尾 尚
16:55	閉会の挨拶 学長 鬼木 和子

総合司会・パネルディスカッション進行：教育開発研究所員・情報マネジメント学部教授 椎野 睦

◆教育開発研究所（2008年度設立）の位置づけ

- ・ 教育研究・FD活動を組織的に推進し、本学の教育の特色強化につながる活動へと発展させるための全学組織
- ・ 成果を本学の学生教育に還元するとともに、わが国におけるマネジメント教育の発展に資することを目的とする

◆活動内容

- ・ 実践的な教育の質的向上に向けた調査・研究
- ・ 教授法、教育プログラム等の企画・提案
- ・ **FD活動の推進と支援**
- ・ 学習支援、学力向上に関する調査・研究・活動支援
- ・ 大学の教育研究活動に関する発表、出版、情報発信等

◆本学FD活動の特長

- ・ 毎年度、全学共通のFDテーマを設定
- ・ 活動主体は全教員であり、ワーキング・グループ（WG）体制で改善活動を実施
- ・ WG定期会合を経て、活動成果を教育開発研究所年報にて、内外部に発信する

学内にて蓄積したIRデータ一覧

ユニット	事業／IRデータ（抜粋）
A. 教育支援	授業参観・授業評価の実施／授業参観数・授業評価の実施数
	■学修調査の実施／学修調査の回答率・分析結果
B. 学習支援	授業外学習支援／Shares企画数・参加学生数
	ラーニング commons の利用促進／認知度・利用頻度
	海外研修・留学支援／海外プログラム参加学生数・留学生数
C. 教学・大社接続	パーソナリティ診断／受検者数・受検数
	AL・PBL調査・SA配置／AL・PBL科目数・SA設置科目数
	FD研修会の企画・運営／FD研修会の出席率
	プレースメントテスト実施・退学率把握／受験率・退学率
	科目ナンバリングの実施／ナンバリング方式
	卒業生調査・就職先調査／回答数・分析結果
D. 高大接続	高校教員・高校生向けプログラムの実施／実施件数・参加者数

①小野田より報告

②松尾より報告

： IRデータ全体からFDテーマ案を検討し、実行フェーズに移すプロセスについて

本学における学修調査報告について 「2025年度 学修調査報告」

教育事業推進委員会 副委員長
情報マネジメント学部 教授
小野田 哲弥

目次

1. 調査概要とあゆみ

2. クラスター分析

3. まとめ

1. 調査概要とあゆみ

1-1. 調査項目と回答率

1-2. 定点調査と他調査間連携

1-3. 独自クラスタリング

1-1. 調査項目と回答率

調査項目 学生の負担を考慮し必要な項目を厳して追加

大問 No.	調査内容	年度別 質問数						備考	
		2020	2021	2022	2023	2024	2025		
1	大学が提供する学びについて	7	7	9	7	7	7	細項目は1-2掲載。	
2	学生本人の学びについて	9	9	11	9	9	9	22年度は回答理由の質問を追加。	
3	満足要因				2	2	2	22年度の理由質問を独立させ、最も満足/不満な点について調査。	
4	不満要因				2	2	2		
5	成長実感科目						2	2	カリキュラムの軸となる科目を検証すべく科目名と理由を調査。
6	「社会人基礎力※」の修得度 ※経済産業省 2006								
合計		16	16	20				20	22

1-1. 調査項目と回答率

回答率 時期と方法を改善し2025年度に過去最高を達成

年度	回答率	期間	学年	方法
2020	88.1%	次年度前学期 ガイダンス期間	旧1～3年生	manaba アンケート
2021	58.5%	後学期末 授業調査期間	全学年	授業評価と 同一システム
2022	52.3%			
2023	84.2%	後学期 ガイダンス期間	全学年	manaba アンケート
2024	89.5%			
2025	91.8%			

- 25年度の不安材料は「新たな方法」の採用であったが、教職協働により克服。

1-1. 調査項目と回答率

属性別回答率 通学課程 2学部3学科ともに向上

学年	経営学部												情報マネジメント学部					
	経営学科						マーケティング学科						現代マネジメント学科					
	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2020	2021	2022	2023	2024	2025
1年	93.7%	66.4%	45.5%	97.8%	96.1%	97.4%	94.2%	53.4%	49.5%	97.7%	97.4%	94.7%	96.8%	88.6%	78.0%	89.9%	94.5%	94.1%
2年	95.1%	76.4%	60.7%	89.2%	94.6%	96.0%	81.8%	61.7%	47.7%	88.2%	94.3%	97.7%	87.9%	73.3%	70.0%	92.5%	94.2%	93.2%
3年	89.3%	57.7%	66.9%	85.4%	89.3%	91.8%	79.8%	63.0%	58.5%	82.4%	89.5%	92.9%	76.7%	58.9%	47.7%	80.1%	92.1%	92.0%
4年		33.3%	37.7%	76.8%	74.5%	87.4%		32.2%	28.5%	58.9%	68.0%	81.8%		38.7%	36.0%	71.1%	84.5%	82.4%
全体	92.6%	58.6%	53.2%	87.3%	88.5%	93.1%	84.7%	51.9%	45.3%	82.0%	88.2%	92.0%	87.0%	65.0%	58.3%	83.3%	91.2%	90.3%

- 25年度は全学科で回答率が90%を突破。特に4年生の伸びが大きく貢献した。

【自由が丘キャンパス】 経営学部 2,436名												【湘南キャンパス】 情報マネジメント学部 1,498名											
経営学科 1,552名						マーケティング学科 884名						現代マネジメント学科 1,498名											
1年生		2年生		3年生		4年生		1年生		2年生		3年生		4年生		1年生		2年生		3年生		4年生	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
211	180	177	197	187	202	209	189	62	181	61	159	63	149	70	139	258	130	237	114	253	108	268	130

《参考》通学課程 全学生数 3,934名 (2025年10月7日現在)

1-2. 定点調査と他調査間連携

定点調査項目 初年度から6年連続で同一内容にて実施

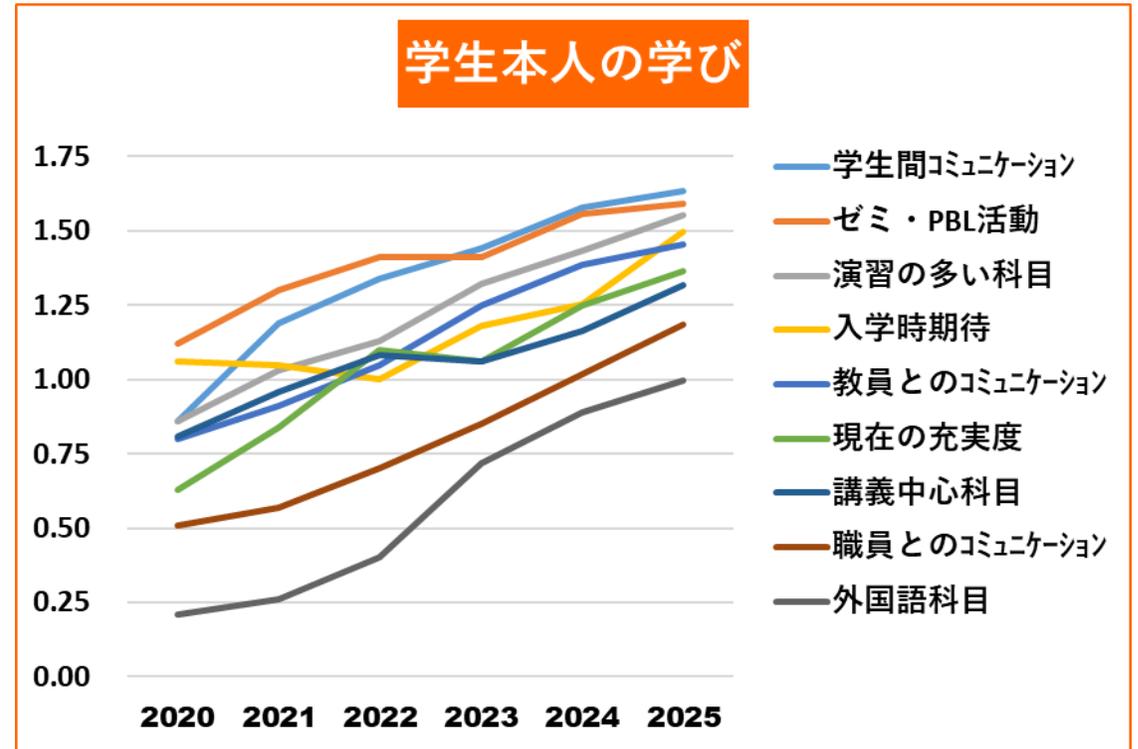
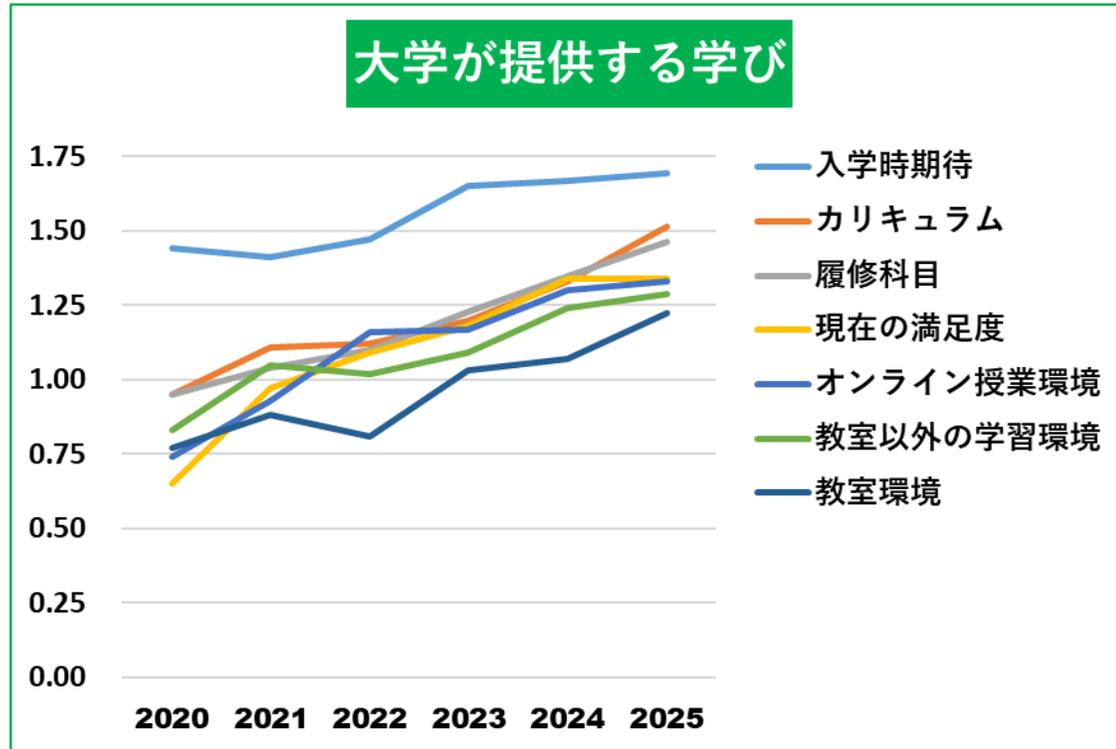
変数ID	大学が提供する学び
Y1_1	入学時の大学への期待
Y1_2	現在の大学への満足度
X1_1	カリキュラム
X1_2	履修科目
X1_3	教室環境
X1_4	オンライン授業環境
X1_5	教室以外の学習環境

変数ID	学生本人の学び
Y2_1	入学時の自身への期待
Y2_2	現在の自身の充実度
X2_1	講義中心科目
X2_2	演習の多い科目
X2_3	ゼミ・PBL活動
X2_4	外国語科目
X2_5	学生間コミュニケーション
X2_6	教員とのコミュニケーション
X2_7	職員とのコミュニケーション

選択肢は全設問で共通の7段階
(-3・-2・-1・0・+1・+2・+3)

1-2. 定点調査と他調査間連携

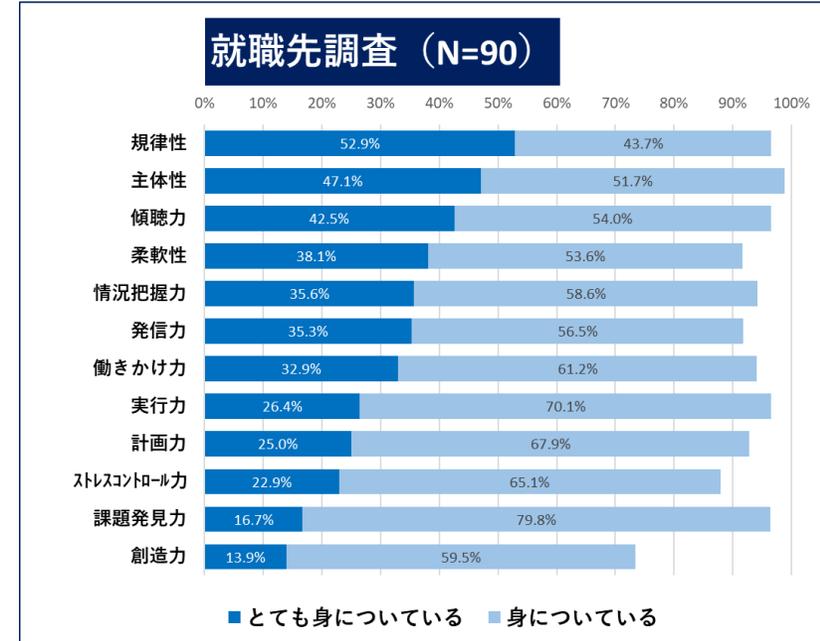
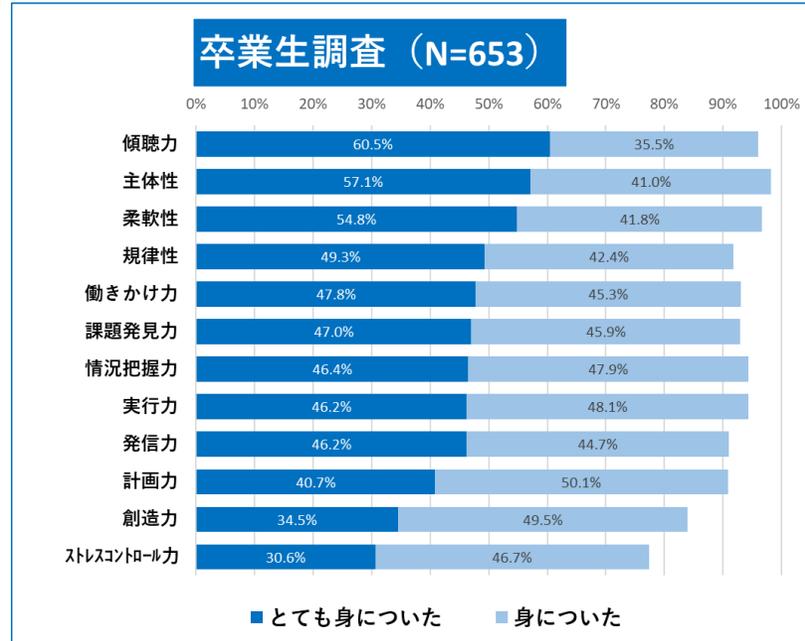
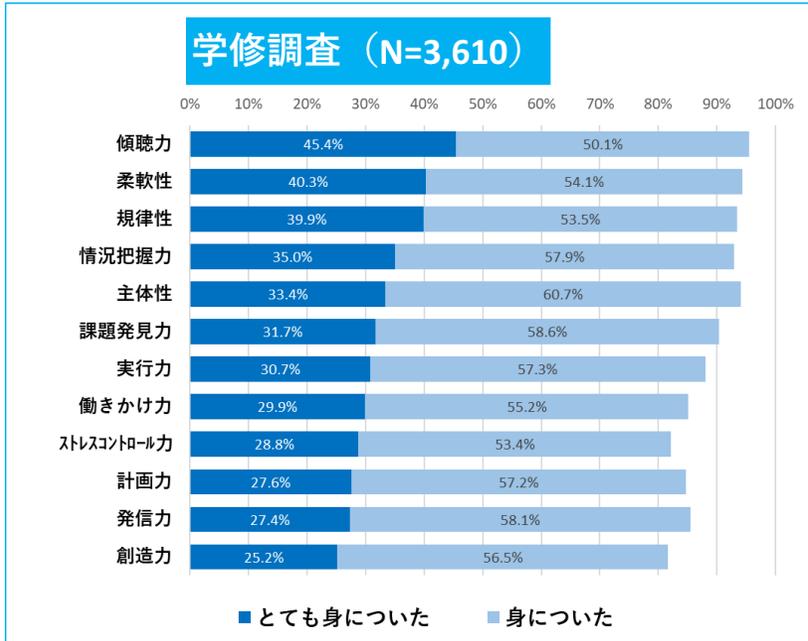
定点調査項目平均値の時系列推移 基本的に右肩上がり傾向



- 20年度～25年度の間で、最もポイント上昇の高い項目は、左図では「現在の満足度」(+0.69)、右図では「外国語科目」(+0.79)であり、課題克服を意識した施策の成果が現れている。

1-2. 定点調査と他調査間連携

25年度新規調査 卒業生・就職先調査(2024)と類似傾向を把握

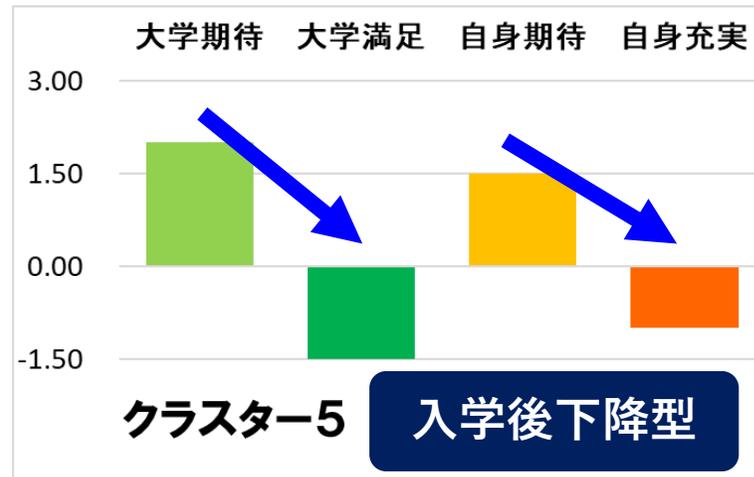
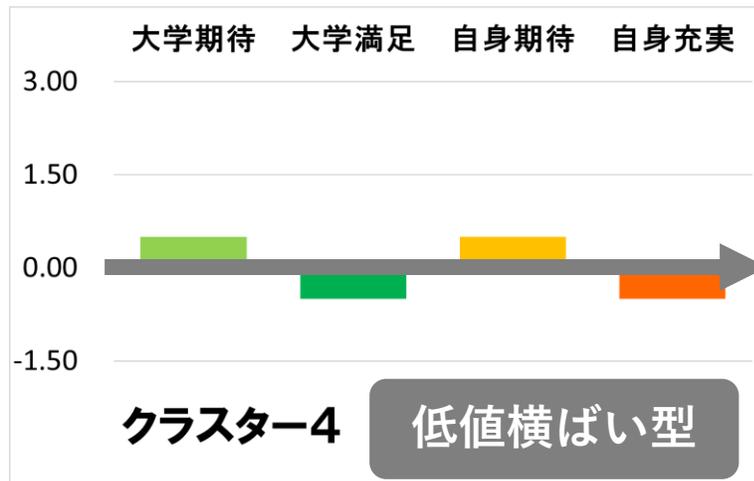
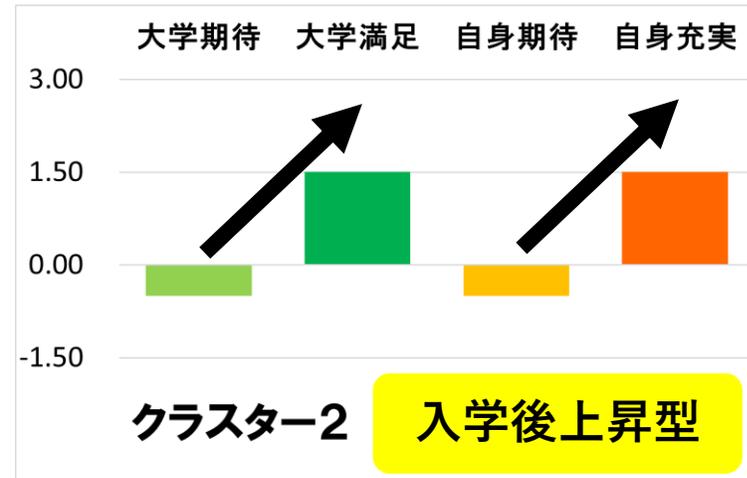


「社会人基礎力」(経済産業省2006)の修得度に関する調査

- 全調査で修得率(「身についた/身につけている」以上)9割超は「傾聴力」「柔軟性」「規律性」「状況把握力」「主体性」「課題発見力」。
- 卒業生調査・就職先調査で9割を超えているにも関わらず、学修調査で9割未達の「実行力」「働きかけ力」「計画力」「発信力」は在学中の強化が望まれる。

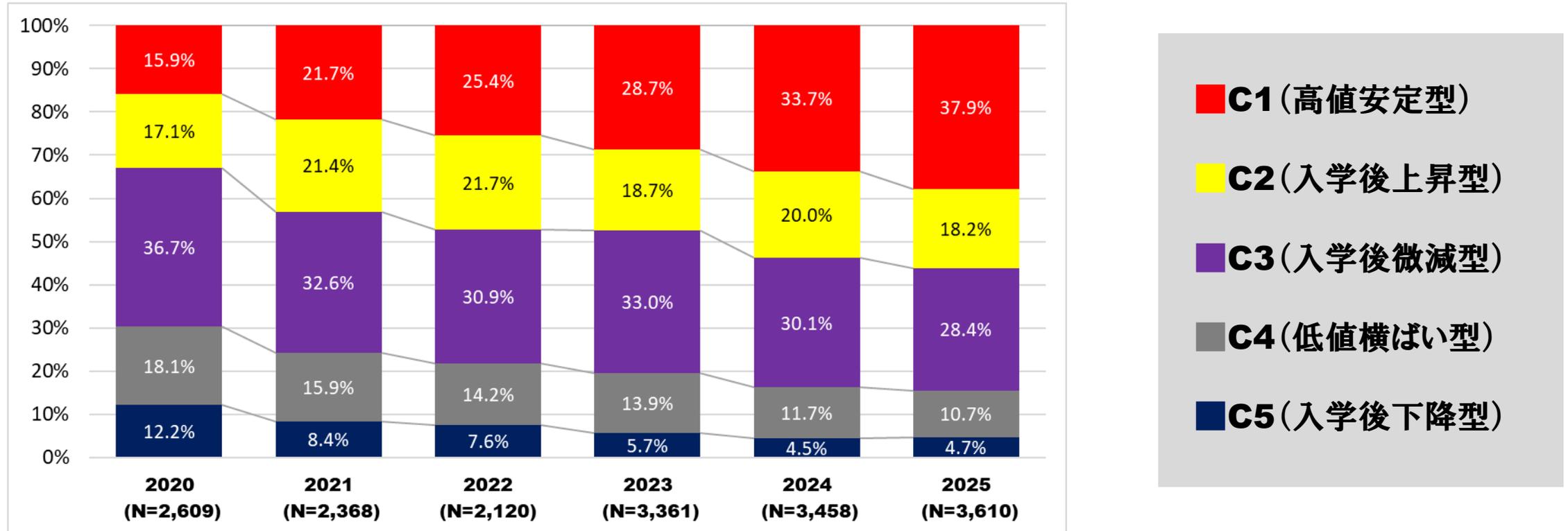
1-3. 独自クラスタリング

学生5クラスター 全年度共通アルゴリズムにより回答学生を分類



1-3. 独自クラスタリング

クラスター構成比の時系列推移 理想的な傾向が持続



- C1 (高値安定型)が継続的に増加し、C4 (低値横ばい型)が継続的に減少。
- C3 (入学後微減型)のさらなる減少と、C2 (入学後上昇型)の増加実現が課題。

2. クラスター分析

2-1. 基本属性における構成比

(1) 入試区分 (2) GPA (3) 学科・学年

2-2. 専門コースに関する考察

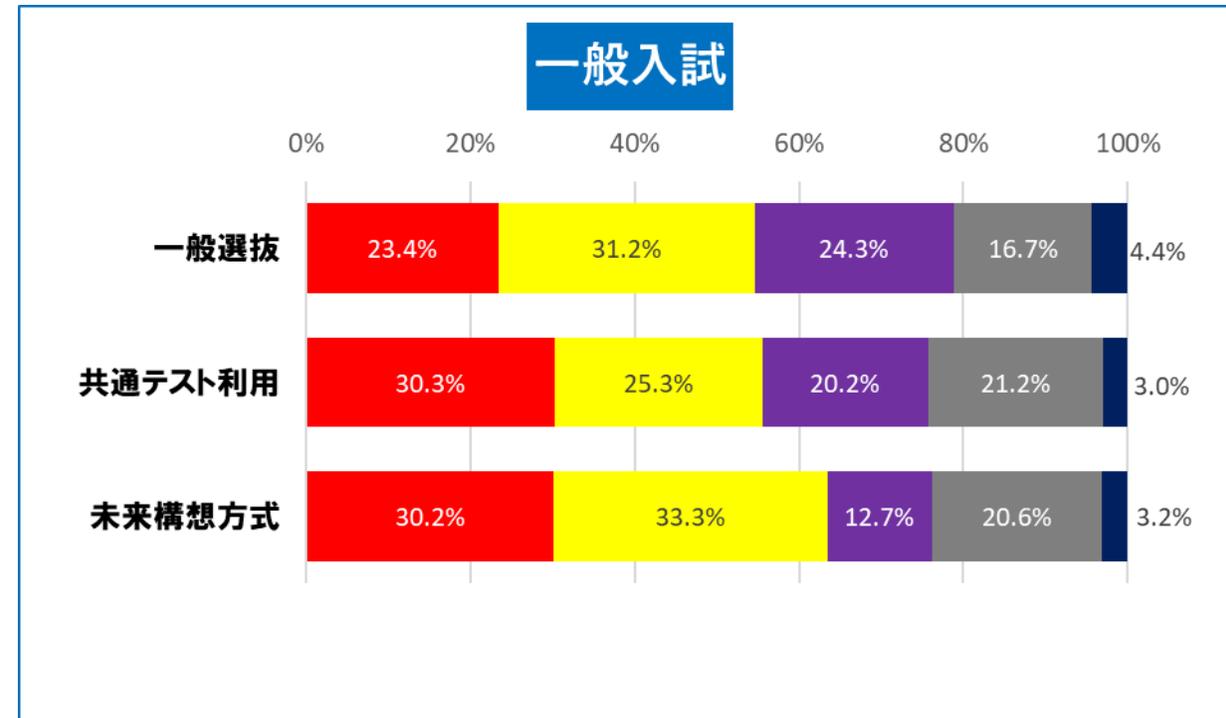
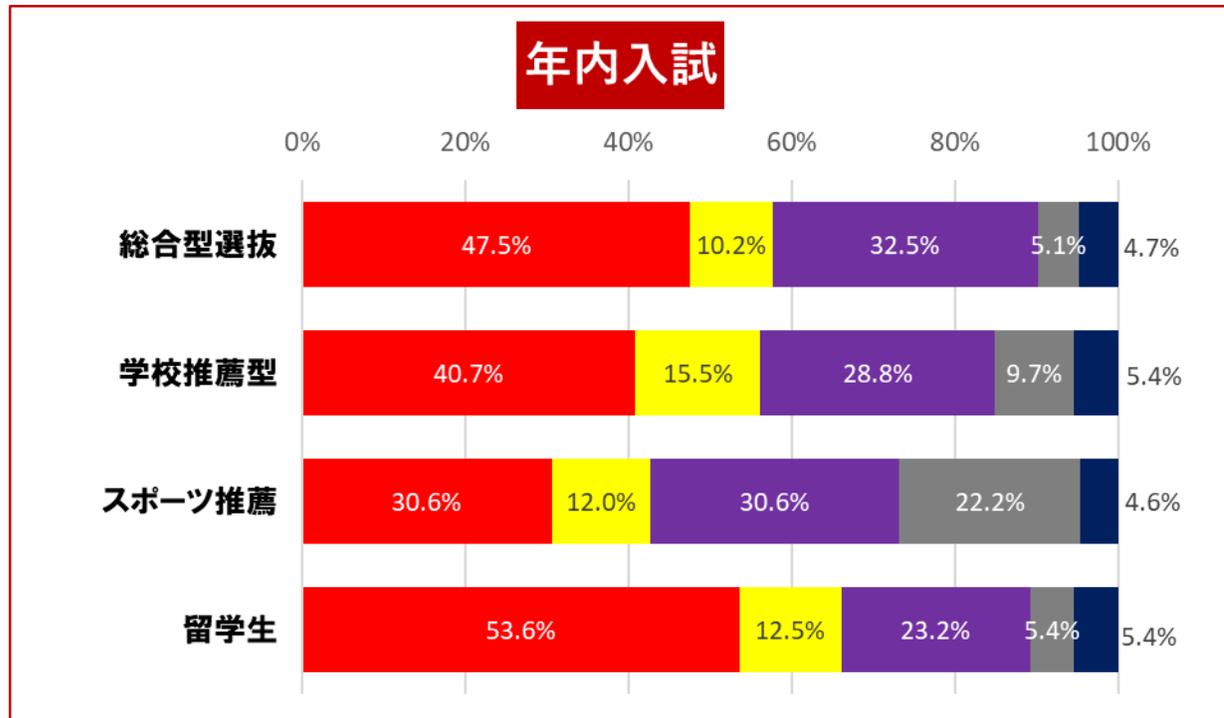
(1) クラスター構成 (2) 基本属性クロス (3) 充実度

2-3. 意識調査のクラスター間比較

(1) 満足要因 (2) 不満要因 (3) 成長実感科目

2-1. 基本属性における構成比

(1) 入試区分 年内入試はC1率が高く一般入試はC2率が高い

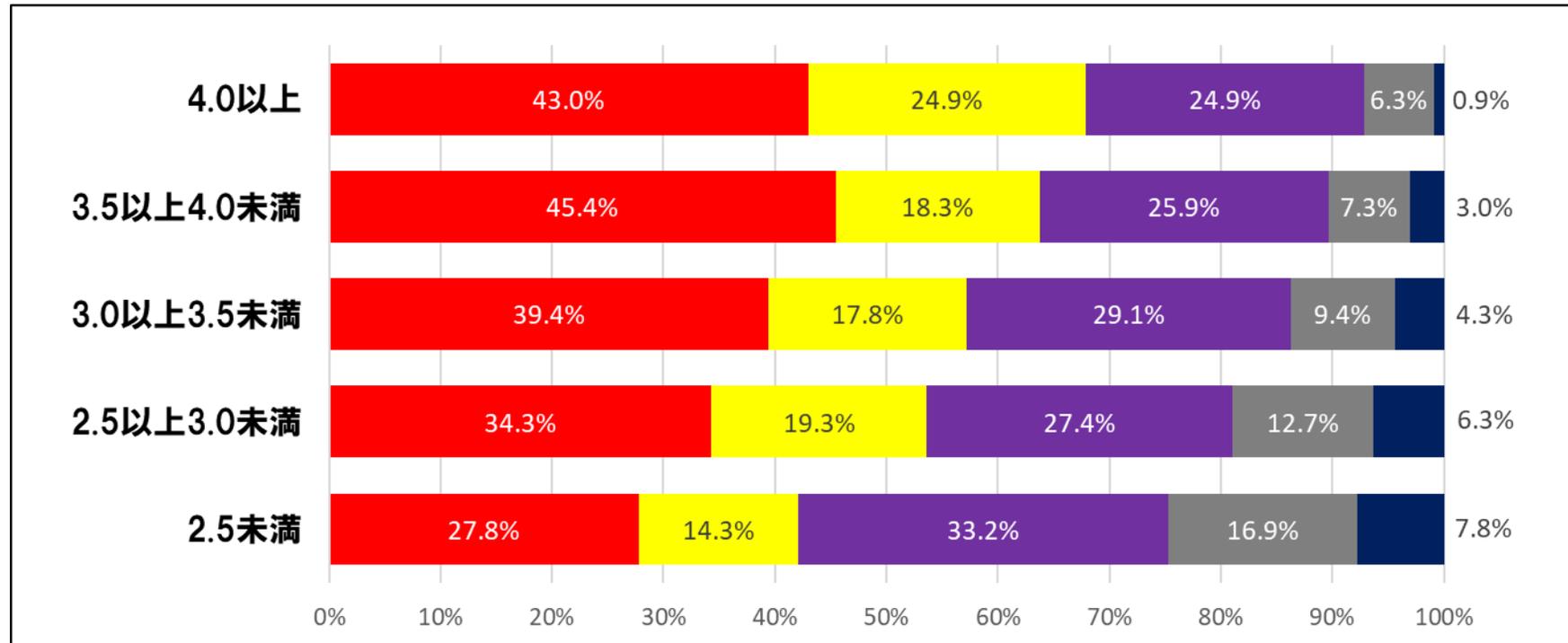


■ C1 (高値安定型) ■ C2 (入学後上昇型) ■ C3 (入学後微減型) ■ C4 (低値横ばい型) ■ C5 (入学後下降型)

- 年内入試では、留学生のC1率が最も高く、スポーツ推薦のC4率は一般入試に類似。
- 一般入試では、本学独自の入試「未来構想方式」のC2率が最も高い。

2-1. 基本属性における構成比

(2) GPA 明らかな相関関係が見られる

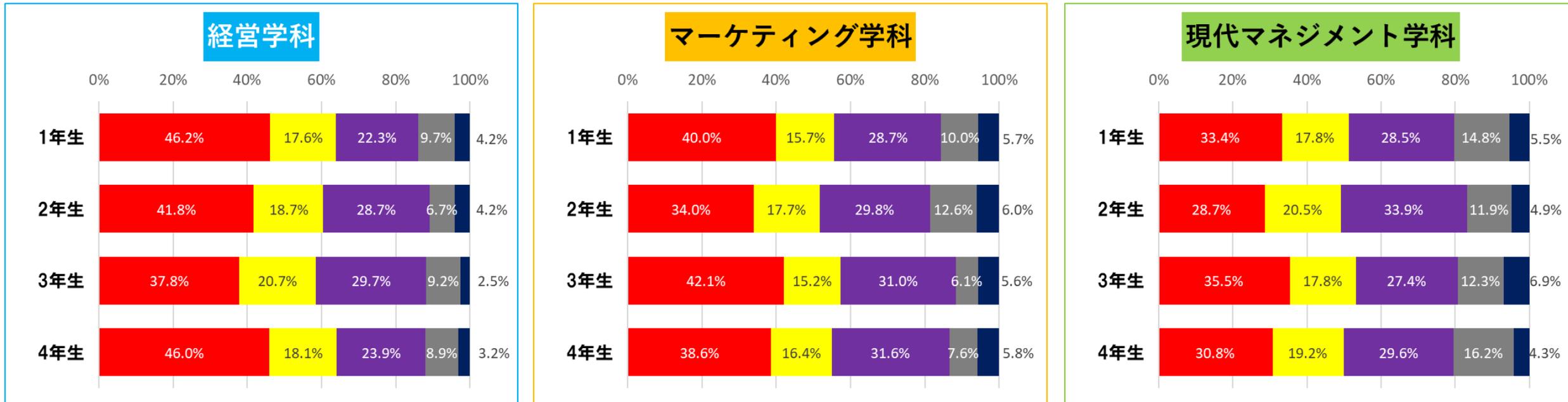


■ C1 (高値安定型) ■ C2 (入学後上昇型) ■ C3 (入学後微減型) ■ C4 (低値横ばい型) ■ C5 (入学後下降型)

- GPAが高いほどC1とC2の合計比率が高く、低いほどC4とC5の合計比率が高い。
- 「3.5以上4.0未満」まではC1率が上昇するが、「4.0以上」においてはC2率の高さに押されて減少する。

2-1. 基本属性における構成比

(3) 学科・学年 学科ごとにやや異なる傾向

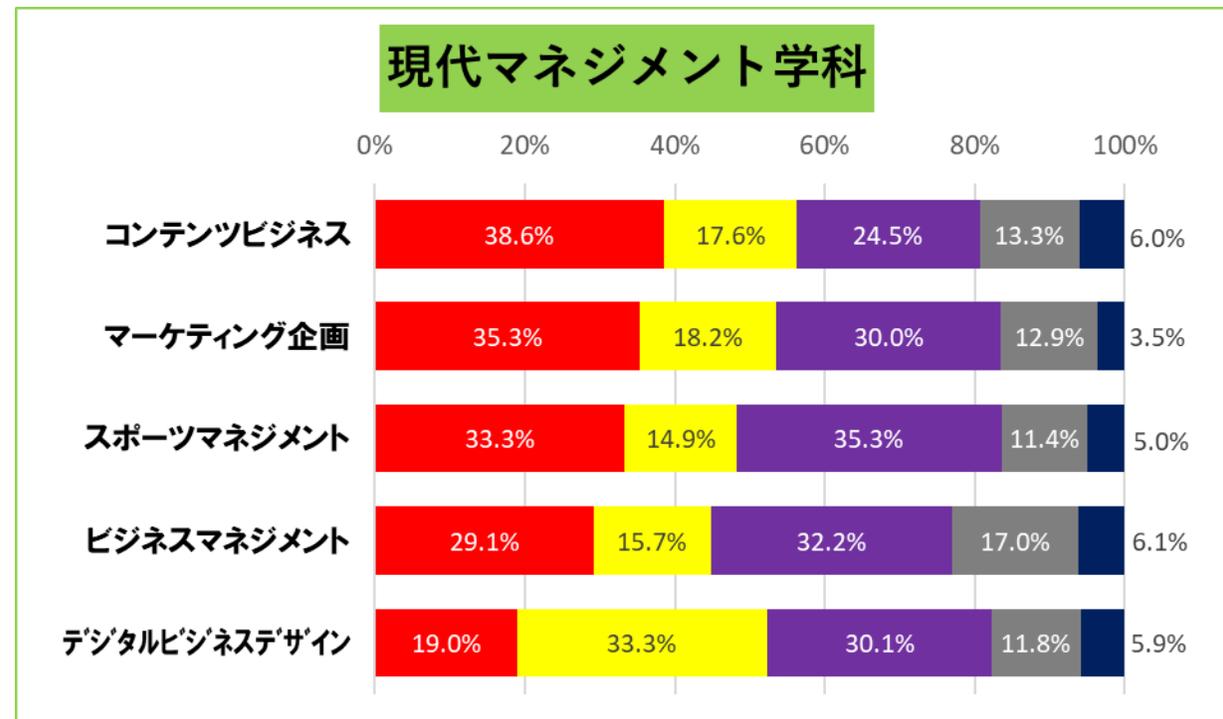
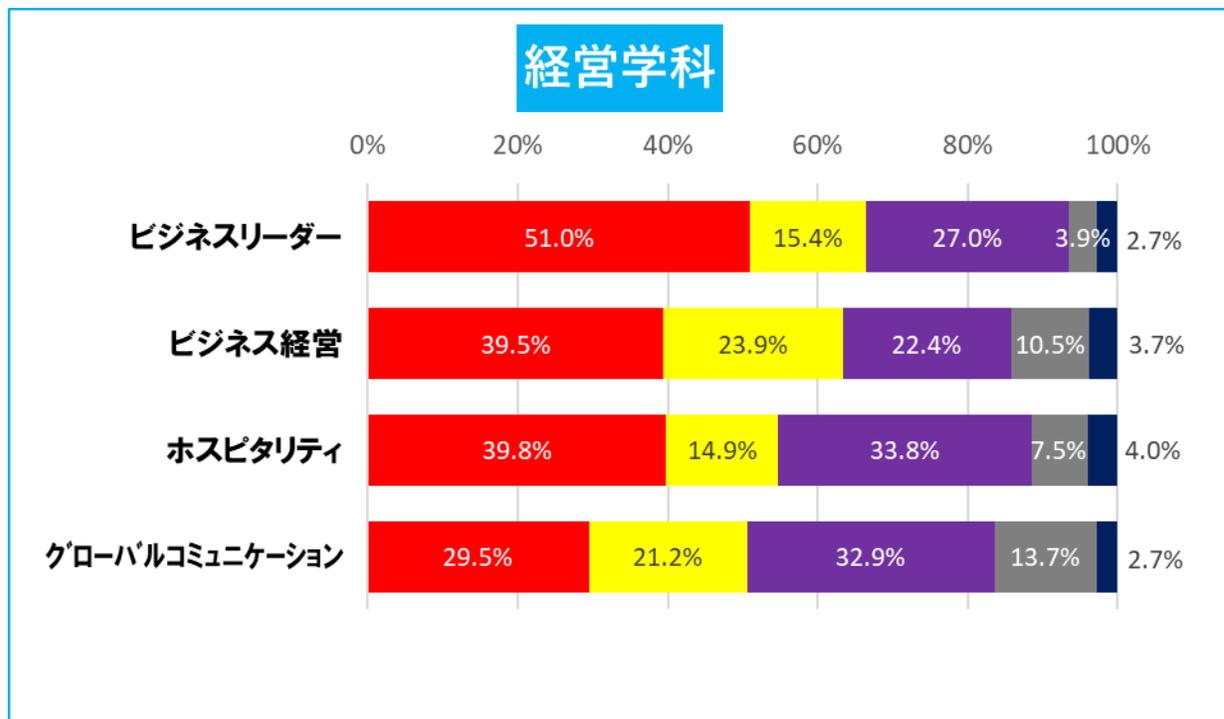


■ C1 (高値安定型) ■ C2 (入学後上昇型) ■ C3 (入学後微減型) ■ C4 (低値横ばい型) ■ C5 (入学後下降型)

- 全学科ともC1率は2年次において一時的に減少する。
- 経営学科ではC1率は3年次まで減少するが、4年次において再び高い値を示す。
- マーケティング学科と現代マネジメント学科では、3年生においてC1率が最高となる。

2-2. 専門コースに関する考察

(1) クラスタ構成 経営学科と現代マネジメント学科がコース制

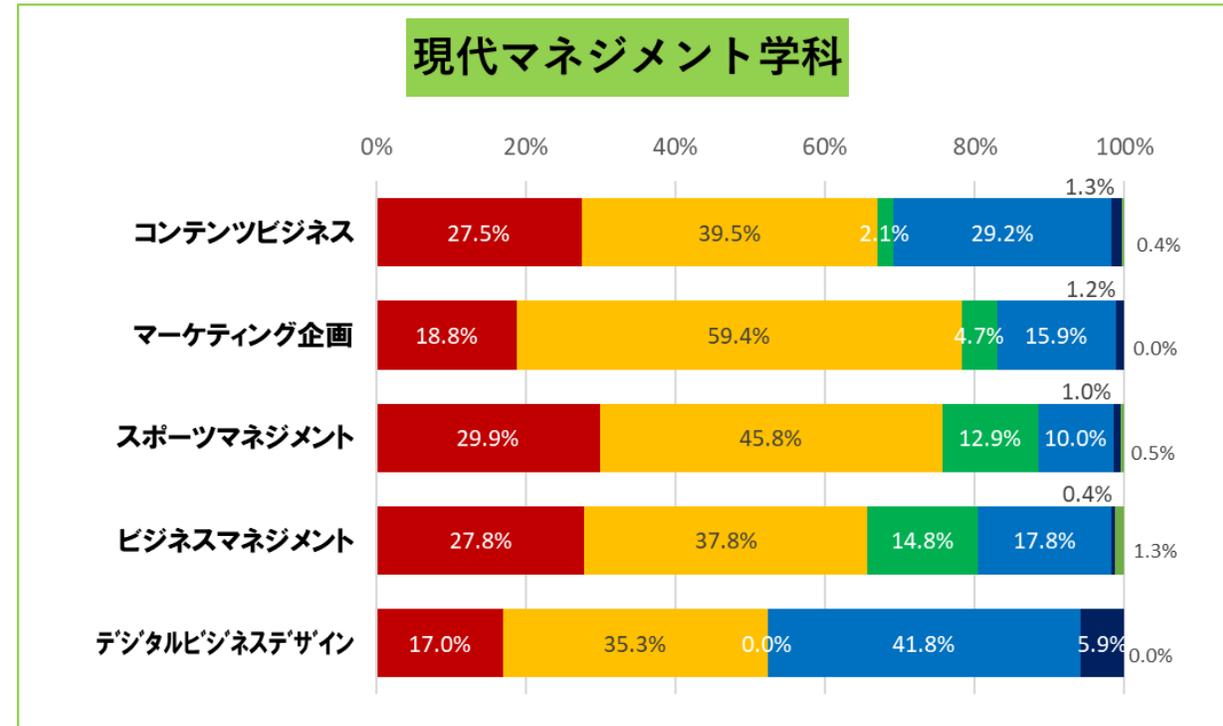
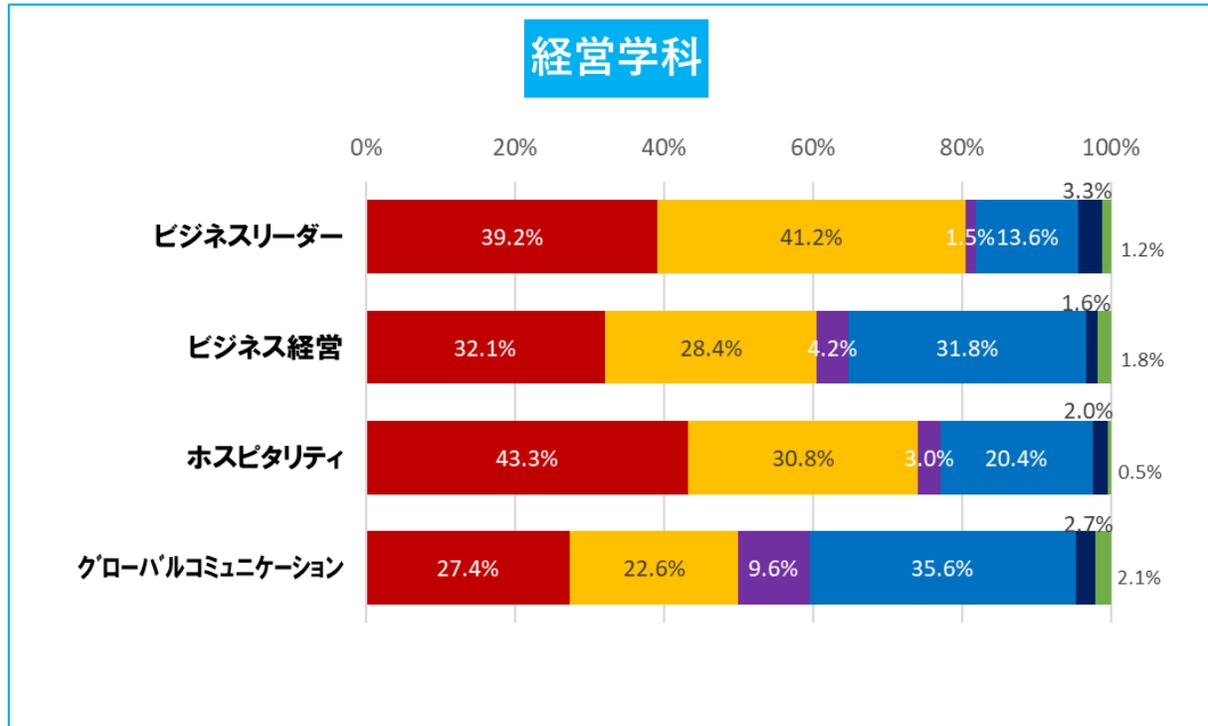


■ C1 (高値安定型) ■ C2 (入学後上昇型) ■ C3 (入学後微減型) ■ C4 (低値横ばい型) ■ C5 (入学後下降型)

- 経営学科では、ビジネスリーダーコースのC1率は過半数。
- 現代マネジメント学科では、デジタルビジネスデザインコースのC2率は3分の1。

2-2. 専門コースに関する考察

(2) 基本属性クロス ①入試区分 両学科とも構成比に特徴

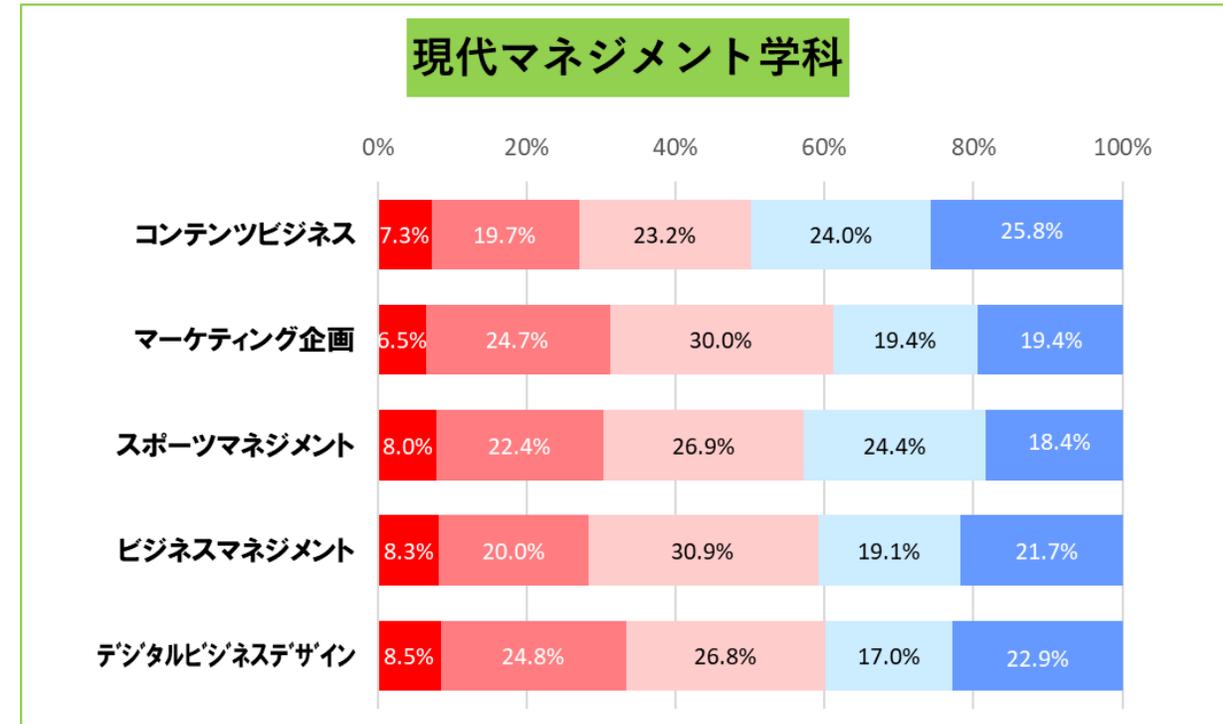
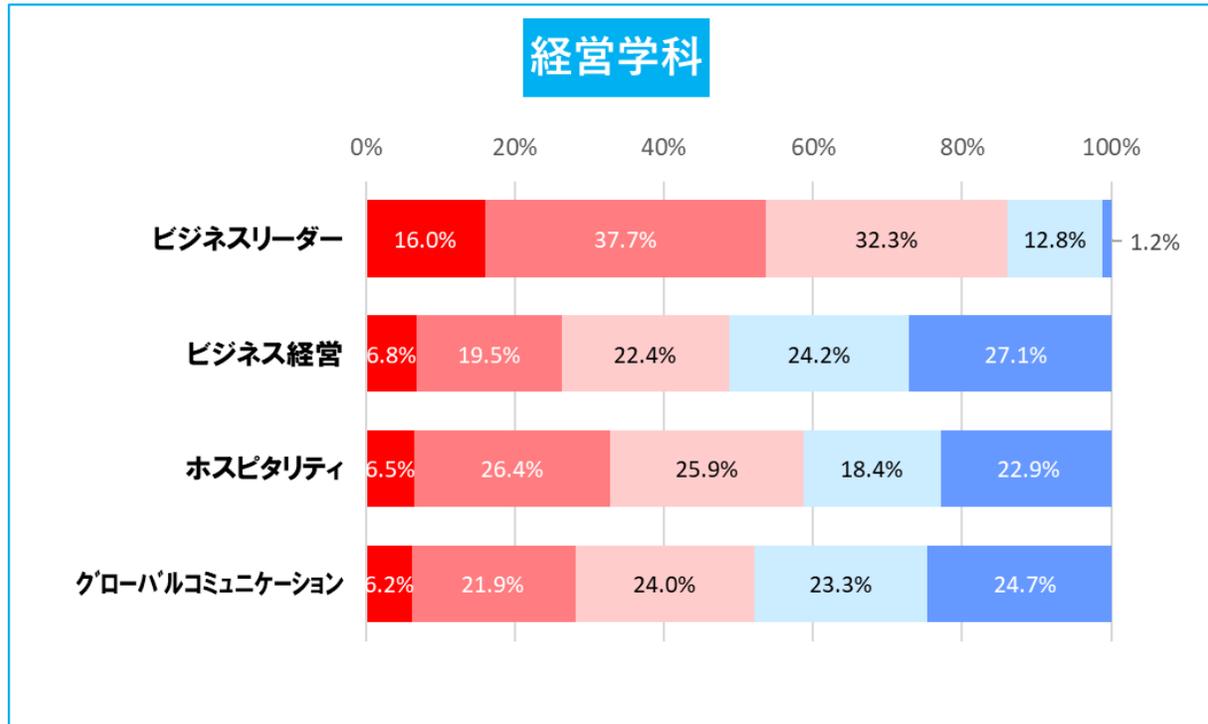


■ 総合型選抜 ■ 学校推薦型 ■ スポーツ推薦 ■ 留学生 ■ 一般選抜 ■ 共通テスト利用 ■ 未来構想方式

- 経営学科では、年内入試率の高い2コースと一般入試率の高い2コースに大別される。
- 現代マネジメント学科では、デジタルビジネスデザインコースの一般入試率の高さが際立つ。スポーツ推薦入学者は同コースを除いた4コースに分散している。

2-2. 専門コースに関する考察

(2) 基本属性クロス ②GPA 両学科で異なる傾向

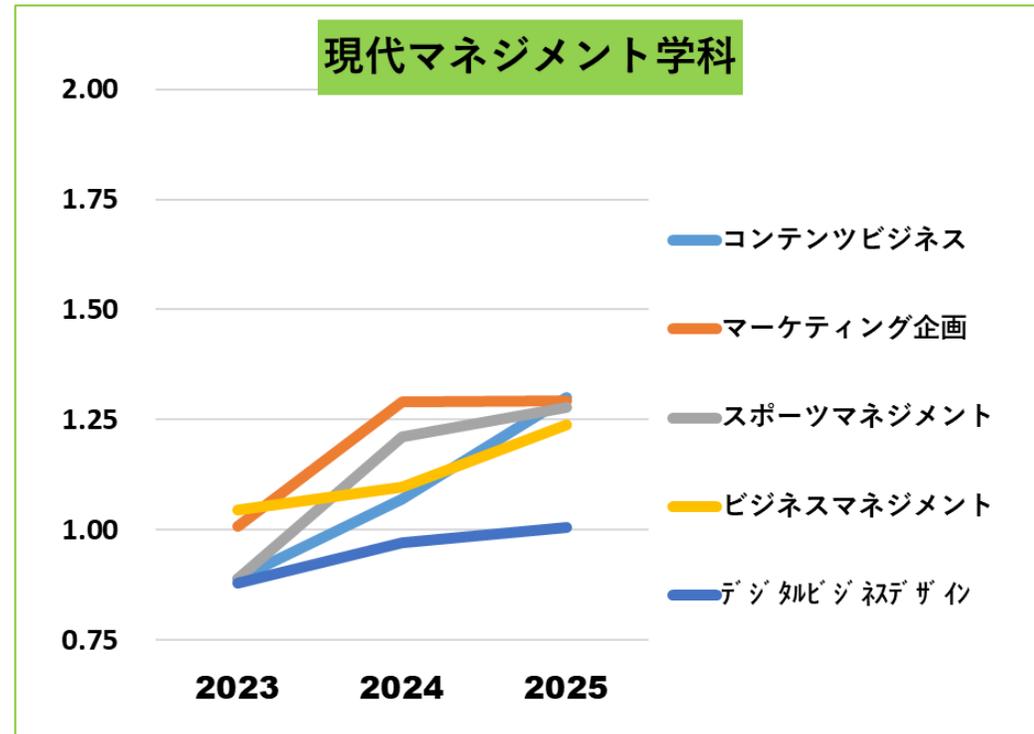
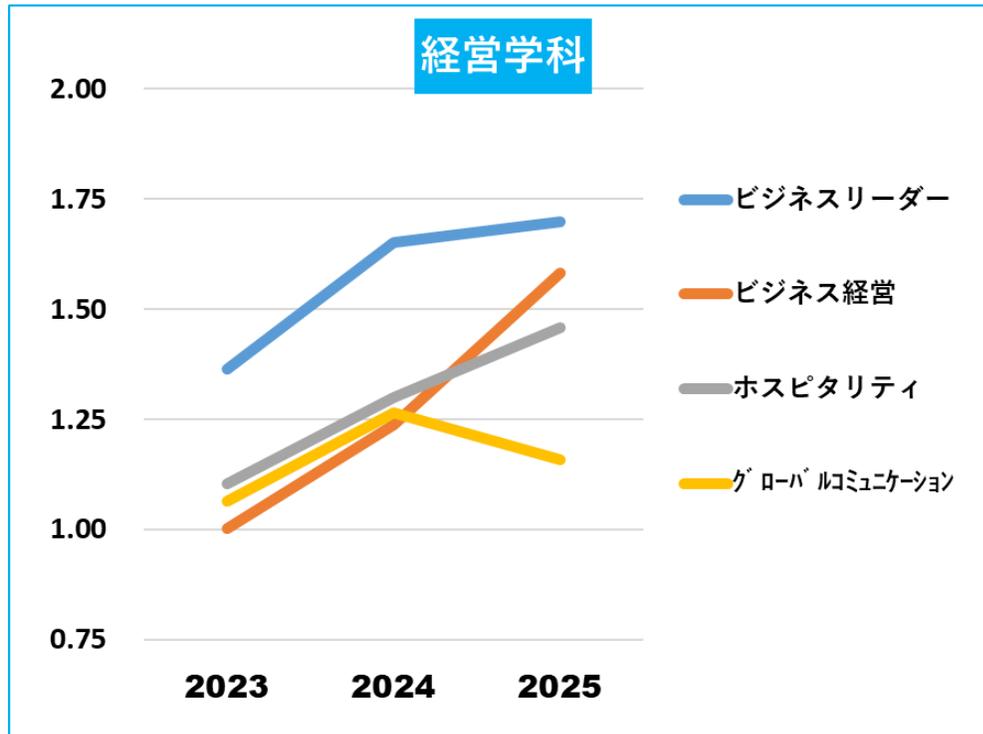


■ 4.0以上 ■ 3.5以上4.0未満 ■ 3.0以上3.5未満 ■ 2.5以上3.0未満 ■ 2.5未満

- 経営学科では、上位層がビジネスリーダーコースに集中。
- 現代マネジメント学科では、コース間に大きな差異は見られない。

2-2. 専門コースに関する考察

(3) 充実度 ビジネス経営とコンテンツビジネスが近年上昇



「デジタルビジネスデザインコース」新規開設時(2023年)からの比較

- 経営学科では、ビジネスリーダーコースが首位を走るが、ビジネス経営コースが23年の最下位から急伸して猛追。グローバルコミュニケーションコースの低下には環境要因も。
- 現代マネジメント学科では、コンテンツビジネスコースが躍進し25年度には首位に。

2-3. 意識調査のクラスター間比較

(1) 満足要因 (並べ替えは全体基準、C内上位5件を太字)

経営学部	全体	C1	C2	C3	C4	C5
ゼミ活動	20.2%	23.6%	23.3%	17.7%	10.5%	10.2%
学生間コミュニケーション	16.9%	19.3%	18.6%	15.9%	11.0%	6.1%
PBL科目	12.6%	13.4%	11.2%	14.5%	9.0%	6.1%
演習中心科目	10.3%	10.7%	13.4%	10.6%	3.0%	6.1%
教員とのコミュニケーション	6.4%	7.0%	6.5%	6.3%	5.0%	5.1%
カリキュラム	6.0%	6.7%	4.7%	6.8%	5.0%	2.0%
施設環境	5.6%	4.9%	5.2%	5.6%	8.0%	8.2%
外国語科目	3.9%	3.3%	3.7%	4.7%	3.0%	8.2%
オンライン授業	3.4%	1.6%	2.0%	3.9%	11.0%	7.1%
教室環境	2.9%	2.9%	2.5%	2.6%	2.5%	8.2%
講義中心科目	1.8%	1.0%	3.0%	2.3%	1.5%	2.0%
職員とのコミュニケーション	1.0%	0.9%	1.2%	1.0%	2.0%	0.0%
情報環境	0.9%	1.0%	0.5%	0.5%	2.0%	3.1%
その他	0.7%	0.7%	0.2%	0.8%	0.0%	3.1%
特になし	7.4%	3.1%	4.0%	7.1%	26.5%	24.5%

情報マネジメント学部	全体	C1	C2	C3	C4	C5
ゼミ活動	22.4%	24.1%	28.3%	21.3%	18.7%	6.8%
学生間コミュニケーション	16.3%	17.2%	18.1%	18.1%	10.7%	9.6%
施設環境	8.9%	10.8%	6.3%	9.4%	9.6%	1.4%
カリキュラム	8.3%	8.7%	13.0%	7.4%	2.7%	8.2%
教員とのコミュニケーション	5.6%	6.0%	5.1%	5.2%	7.5%	2.7%
演習中心科目	5.5%	6.2%	4.3%	6.7%	2.7%	5.5%
PBL科目	3.5%	4.6%	2.8%	4.5%	0.0%	2.7%
教室環境	3.2%	4.4%	2.8%	3.0%	0.5%	5.5%
講義中心科目	3.2%	3.2%	3.5%	3.2%	2.1%	4.1%
オンライン授業	2.9%	3.4%	1.2%	2.5%	3.7%	5.5%
情報環境	2.1%	2.3%	1.2%	2.0%	2.7%	2.7%
職員とのコミュニケーション	1.3%	1.1%	0.4%	2.0%	0.0%	4.1%
外国語科目	0.7%	0.2%	1.2%	1.0%	0.0%	2.7%
その他	1.0%	0.7%	2.0%	0.5%	1.6%	1.4%
特になし	15.2%	6.9%	9.8%	13.2%	37.4%	37.0%

■ C1 (高値安定型)

■ C2 (入学後上昇型)

■ C3 (入学後微減型)

■ C4 (低値横ばい型)

■ C5 (入学後下降型)

- 両学部ともC1～C3の1位は「ゼミ活動」、2位は「学生間コミュニケーション」で共通。C4・C5では「特になし」の比率が高く、「オンライン授業」の比率も高い。
- 経営学部では「PBL科目」が全体の3位につけ、「外国語科目」の順位も高い。
- 情報マネジメント学部では、「施設環境」が3位につける。その理由は自由記述より広いグラウンド、手頃な学食、快適な図書館自習室の3点に集約される。

2-3. 意識調査のクラスター間比較

(2) 不満要因 (並べ替えは全体基準、C内上位5件を太字)

経営学部	全体	C1	C2	C3	C4	C5
特になし	43.7%	47.9%	41.7%	41.5%	44.0%	24.5%
施設環境	20.5%	21.6%	22.1%	19.8%	17.0%	16.3%
外国語科目	7.0%	5.5%	9.9%	7.9%	8.0%	3.1%
オンライン授業	5.0%	4.9%	6.0%	5.1%	2.0%	7.1%
教室環境	4.3%	4.8%	5.2%	4.0%	2.5%	2.0%
カリキュラム	3.1%	1.9%	3.0%	3.7%	4.0%	8.2%
情報環境	2.7%	2.8%	2.5%	3.1%	2.0%	2.0%
講義中心科目	2.5%	2.2%	2.7%	2.4%	4.0%	2.0%
PBL科目	2.3%	1.9%	2.0%	1.9%	5.0%	5.1%
ゼミ活動	1.9%	1.3%	1.2%	2.1%	3.5%	7.1%
学生間コミュニケーション	1.8%	0.4%	0.2%	2.4%	4.0%	12.2%
教員とのコミュニケーション	1.3%	1.0%	0.2%	2.3%	1.5%	2.0%
職員とのコミュニケーション	1.1%	1.4%	0.7%	1.1%	1.0%	0.0%
演習中心科目	0.8%	0.9%	0.2%	0.6%	0.5%	3.1%
その他	1.9%	1.5%	2.2%	2.1%	1.0%	5.1%

情報マネジメント学部	全体	C1	C2	C3	C4	C5
特になし	40.8%	45.3%	40.2%	37.7%	44.9%	21.9%
施設環境	25.4%	22.1%	27.6%	24.8%	27.3%	35.6%
教室環境	7.8%	7.6%	8.7%	9.9%	4.8%	2.7%
情報環境	6.1%	7.6%	5.1%	7.4%	2.7%	2.7%
外国語科目	4.5%	5.1%	4.7%	4.5%	2.7%	5.5%
カリキュラム	2.7%	2.1%	1.6%	2.7%	3.2%	9.6%
オンライン授業	2.6%	3.0%	2.0%	2.2%	1.6%	6.8%
講義中心科目	1.9%	1.4%	1.6%	2.0%	3.2%	2.7%
学生間コミュニケーション	1.7%	1.1%	2.0%	2.0%	0.5%	5.5%
教員とのコミュニケーション	1.4%	1.8%	2.0%	1.0%	0.5%	1.4%
ゼミ活動	1.0%	0.5%	0.0%	1.5%	2.1%	1.4%
職員とのコミュニケーション	0.7%	0.7%	1.2%	0.5%	0.5%	0.0%
演習中心科目	0.5%	0.0%	1.2%	0.5%	1.1%	0.0%
PBL科目	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
その他	2.7%	1.6%	2.4%	3.2%	4.3%	4.1%

■ C1 (高値安定型)

■ C2 (入学後上昇型)

■ C3 (入学後微減型)

■ C4 (低値横ばい型)

■ C5 (入学後下降型)

- 両学部共通で圧倒的に「特になし」という意見が多い。次点が「施設環境」。
C4・C5では「カリキュラム」や「学生間コミュニケーション」への不満も見られた。
- 経営学部3位の「外国語科目」は科目数や言語数を増やしてほしいという前向きな理由、
4位の「オンライン授業」も集中力が持続しないという理由が多かった。
- 情報マネジメント学部4位の「情報環境」はほとんどがWi-Fiに関するものであり、
26年度始業に向け大幅な増設が進んでいる。

2-3. 意識調査のクラスター間比較

(3) 成長実感科目 (C1~2、各学年上位3科目、1位太字)

経営学科				
	C1 (高値安定型)		C2 (入学後上昇型)	
1年生	基礎ゼミ	40	基礎ゼミ	12
	コミュニケーションの方法	36	基礎ゼミ	11
	ビジネスマナー	26	コミュニケーションの方法	7
2年生	基礎ゼミ	40	基礎ゼミ	20
	コミュニケーションの方法	8	コミュニケーションの方法	3
	ビジネスマナー	8	自由が丘イベントコラボレーション	2
3年生	専門ゼミ	38	専門ゼミ	21
	自由が丘イベントコラボレーション	9	基礎ゼミ	6
	ブランドプロデュース	4	コミュニケーションの方法	4
4年生	専門ゼミ	45	専門ゼミ	18
	コミュニケーションの方法	4	自由が丘イベントコラボレーション	6
	成功するプレゼンテーション	3	地域創生プロジェクト実践	4

マーケティング学科				
	C1 (高値安定型)		C2 (入学後上昇型)	
1年生	基礎ゼミ	19	基礎ゼミ	7
	コミュニケーションの方法	17	コミュニケーションの方法	6
	ビジネスマナー	13	ビジネスマナー	4
2年生	マーケティング・イニシアティブ	10	基礎ゼミ	9
	基礎ゼミ	9	マーケティング・イニシアティブ	6
	成功するプレゼンテーション	5	自由が丘イベントコラボレーション	4
3年生	ブランドプロデュース	7	専門ゼミ	6
	五感に響くマーケティング	7	自由が丘イベントコラボレーション	3
	クリティカル・シンキング	6	五感に響くマーケティング	3
4年生	専門ゼミ	11	アーティスト・プロモーション	2
	ブランドプロデュース	7	クリティカル・シンキング	2
	クリティカル・シンキング	4	ブランドプロデュース	2

現代マネジメント学科				
	C1 (高値安定型)		C2 (入学後上昇型)	
1年生	学び方修得ゼミ	19	学び方修得ゼミ	9
	魅力ある話し方・表現法	18	魅力ある話し方・表現法	7
	発想力を鍛える	4	簿記入門	5
2年生	スポーツ・プロモーション	14	スポーツ・プロモーション	9
	イベントプロデュース	8	イベントプロデュース	7
	ビジネスマナー	7	ビジネスマナー	5
3年生	実践ゼミ	24	実践ゼミ	11
	スポーツ・プロモーション	10	イベントプロデュース	5
	イベントプロデュース	8	スポーツ・プロモーション	3
4年生	実践ゼミ	30	実践ゼミ	23
	イベントプロデュース	9	スポーツ・プロモーション	3
	スポーツ・プロモーション	9	デジタルビジネスの考え方	3

■ PBL科目 (広義では経営学部「基礎ゼミ」を含む)
 ■ デジタルビジネスデザインコースの科目

- 全学科共通で、成長実感の高い科目の上位はPBL科目が占める。
- 経営学科において狭義PBLが、C1では3年次、C2では4年次に挙がりやすい傾向にはC1は履修希望が叶った時点、C2は成長実感までタイムラグありとの仮説が立てられる。
- 現代マネジメント学科のC2にはデジタルビジネスデザインコースの科目もランクイン。

2-3. 意識調査のクラスター間比較

検証① 4年次C2層(N=92)の元クラスター

2022	1年生	C1	C2	C3	C4	C5	NA
		55.4%		44.6%			0.0%
2023	2年生	C1	C2	C3	C4	C5	NA
		54.3%		38.0%			7.6%
2024	3年生	C1	C2	C3	C4	C5	NA
		63.0%		27.2%			9.8%
2025	4年生	C2(入学後上昇型)					
		100.0%					

- C1** (高値安定型)
- C2** (入学後上昇型)
- C3** (入学後微減型)
- C4** (低値横ばい型)
- C5** (入学後下降型)
- **NA** (未回答)

- 現C2に該当する4年生の過去のクラスター属性を調べると、C3～C5に属していた率が、1年次44.6%→2年次38.0%→3年次27.2%と減少しており、「不満を解消するきっかけ」があったとの仮説が立てられる。

2-3. 意識調査のクラスター間比較

検証② 変化の決め手となったと考えられる成長実感科目(抜粋)

回答者属性				帰属クラスター				成長実感科目	
学科	コース	性別	入試区分	1年	2年	3年	4年	科目名	理由
現代 マネジメント	スポーツ マネジメント	女	一般選抜	C3	C2	C1	C2	スポーツ・ プロモーション	自分たちで企画運営をするに当たって考える力や働きかけ力を成長させることができたと思う。
経営	ビジネス 経営	女	総合型選抜	C3	C4	C2	C2	自由が丘イベント コラボレーション	実際に自由が丘の地域の方々と協働して地域創生活動に取り組み、課題解決力を成長させることが出来た。
現代 マネジメント	コンテンツ ビジネス	男	学校推薦型	C3	C1	C1	C2	デジタルビジネス の考え方	アイデアを思いつきではなくフレームワークを用いて論理的に生み出す力を得た。
マーケティング		女	総合型選抜	C1	C1	C2	C2	アーティスト・ プロモーション	動画制作活動や企画活動によって想像力や計画力が身についた。
マーケティング		男	一般選抜	C3	C3	C3	C2	ブランド プロデュース	社会人視点での思考や仲間の意見を聞きながら自分の意見も言って企画を作り上げる力を成長できた。
経営	ビジネス 経営	男	総合型選抜	C4	C5	C3	C2	専門ゼミ	日経ストックリーグの活動で、スケジュール管理やメールのやりとりのような社会人スキルと、財務分析や株式投資のスキルを身につけることができた。

■ C1 (高値安定型)
 ■ C2 (入学後上昇型)
 ■ C3 (入学後微減型)
 ■ C4 (低値横ばい型)
 ■ C5 (入学後下降型)

- 成長実感科目の履修前後でクラスター変化が起きる仮説、学生生活全般を振り返り4年次にC2に帰属する仮説などが実証された。
- 入学時の高い期待値をさらに上回ると、C1がC2に発展することも起こりうる。PBL科目を軸に、学生の充実感を好転させる契機の創出が求められる。

1. 調査概要とあゆみ

1-1. 調査項目と回答率

- ・ 本学の学修調査は2020年度にスタートし改良を加えながら6年間継続実施してきた。
- ・ 2025年度の調査は、全学科で90%を超える過去最高の回答率を達成した。

1-2. 定点調査と他調査間連携

- ・ 大学満足度や学生充実度は上昇傾向にあり、かつて低位だった項目ほど改善されている。
- ・ 「社会人基礎力」は自他ともに高い修得度を示す。低い項目は教育改善に活用している。

1-3. 独自クラスターリング

- ・ 本学の学修調査分析の優位性は、独自の5類型クラスターリングにある。
- ・ 年々、良好なクラスター比率が増加し、望ましくないクラスター比率が減少している。

2. クラスター分析

2-1. 基本属性における構成比

- ・ 年内入試はC1(高値安定型)が多く、一般入試はC2(入学後上昇型)が多い。
- ・ C1+C2の合計比率は、GPAと強い正の相関関係が見られる。

2-2. 専門コースに関する考察

- ・ C1・C2率の高い特定コースや、GPA上位層の集中と分散といった学科間差異を示した。
- ・ 両学科ともカリキュラム改善が進むコースの充実度が実際に向上し成果を収めている。

2-3. 意識調査のクラスター間比較

- ・ 満足要因は特長認識や改革成果と合致した。不満要因は速やかに対策が講じられている。
- ・ C1とC2の決定要因として、PBL科目履修と成長実感の関係性を明らかにした。

IRの実行フェーズへの移行とFDプロセスマネジメント

教育開発研究所長 松尾 尚

IRに関する課題認識：

- ① IR調査・分析から実行へのPDCAサイクルを組織的に作ること
- ② IR調査結果に対する全教員の我が事意識の醸成

2025 FDワーキンググループ（WG）テーマ案：

全学テーマ「IRをテーマに、当該データに基づく教育改善策を提案する」

→ディプロマポリシー（DP）に資するものを6テーマ選出 → 各教員がやりたいテーマを選択

各WGの目標設定の内容・レベルは幅広く認める

- ・提案内容（レベル）は、調査結果の詳細分析から、仮説導出、実行策の提言、実行着手まで幅広く認める。

組織的取り組み : IRをベースとしたFD活動の流れ

活動の流れ

事実把握
(IRデータ)

テーマ設定

FD活動

- ・目標設定、プロセス管理
- ・仮説導出 (→実行)

活動主体

教育開発研究所
* 教育事業推進委員会
→ユニット単位での活動

教育開発研究所
・6テーマを選定
学長/学部長の承認

ワーキンググループ (WG) 構成
・全教員が参画
・各教員はやりたいテーマを選択→WGに編成

* 教育事業推進委員会

本学学長をはじめとする教学管理職を中心に、大学通学課程教育事業の組織的・安定的運営を図るための組織体委員は、教育支援、学修支援、大社接続、高大接続の4ユニットに分かれて活動

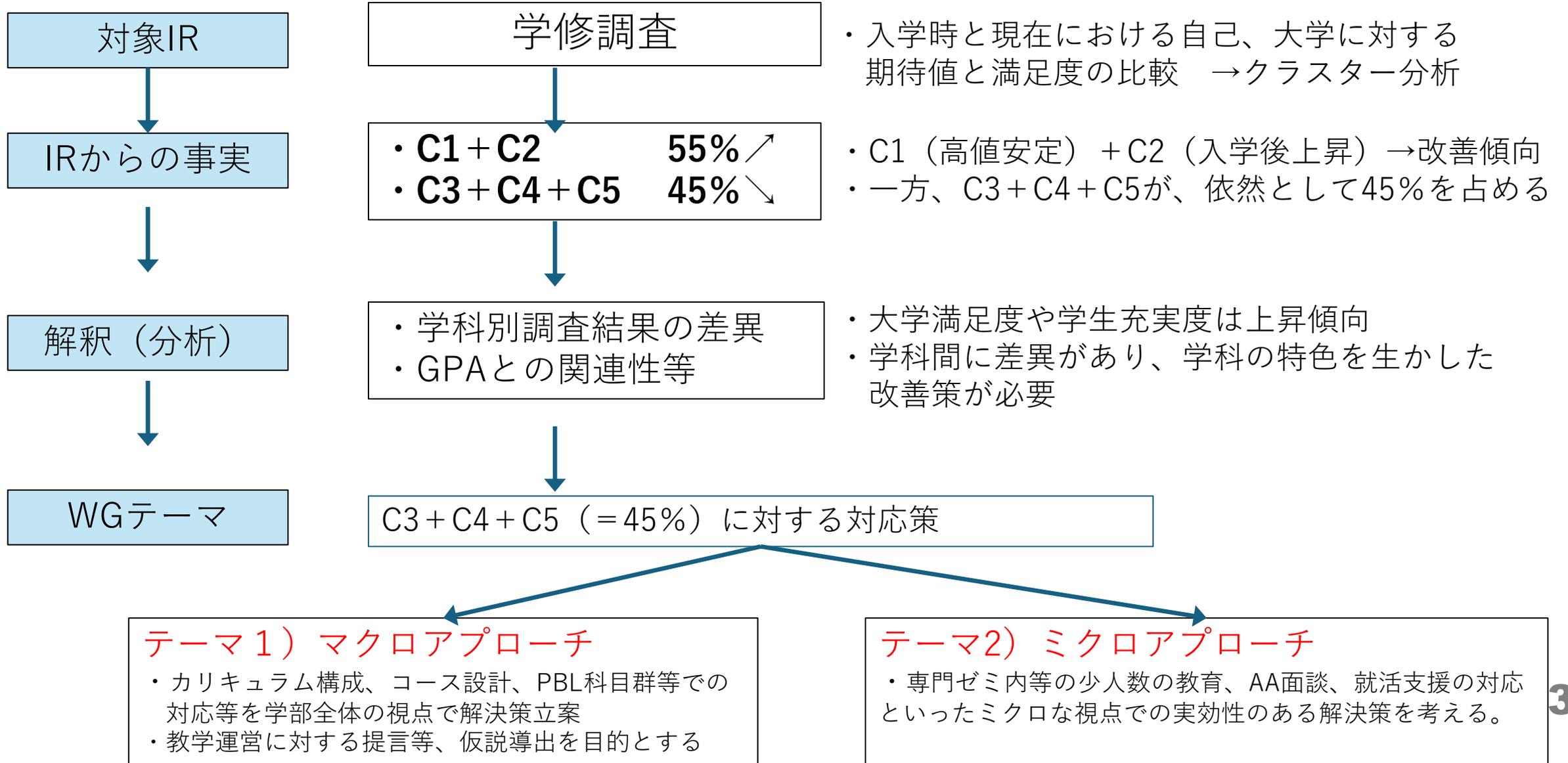
2025年度 FDワーキング・グループテーマ

大分類	概要	テーマNo	テーマ案
教育支援 授業運営	入学前/後の期待度と満足度： C3:入学後微減型、C4:低値安定型、C5:入学後下降型の3層に対する対応策の検討		
		1	「C3,C4,C5層」に対するマクロ視点での対応策の検討(学部・学科カリキュラム等を研究対象とする)
		2	「C3,C4,C5層」に対するミクロ視点での対応策の検討(個別授業改善を対象とする)
	PBL (Project Based Learning) 型学びの深化のために		
		3	Pre-PBL、After-PBLを意識した科目改善とラーニングパスの設計 ～PBLを基点とした総合的な学修成果向上と高次PBL科目の履修促進に向けて～
	合理的配慮が必要な学生への授業運営上のサポート		
	4	合理的配慮対象学生に対しての教職協働の支援体制、および授業における配慮の在り方	
高大接続	社会で要求される数的思考力の強化		
		5	ビジネスパーソンに必要な数的思考力強化・向上のための対応策の検討
大学院	本学大学院における授業外学習のあり方		
		6	大学院)授業外学習の充実化 ～授業外学習の与え方と効果的なフィードバック～

テーマ1 & 2

C3:入学後微減型、C4:低値安定型、C5:入学後下降型の3層に対する対応策の検討

- C1 (高値安定型)
- C2 (入学後上昇型)
- C3 (入学後微減型)
- C4 (低値横ばい型)
- C5 (入学後下降型)



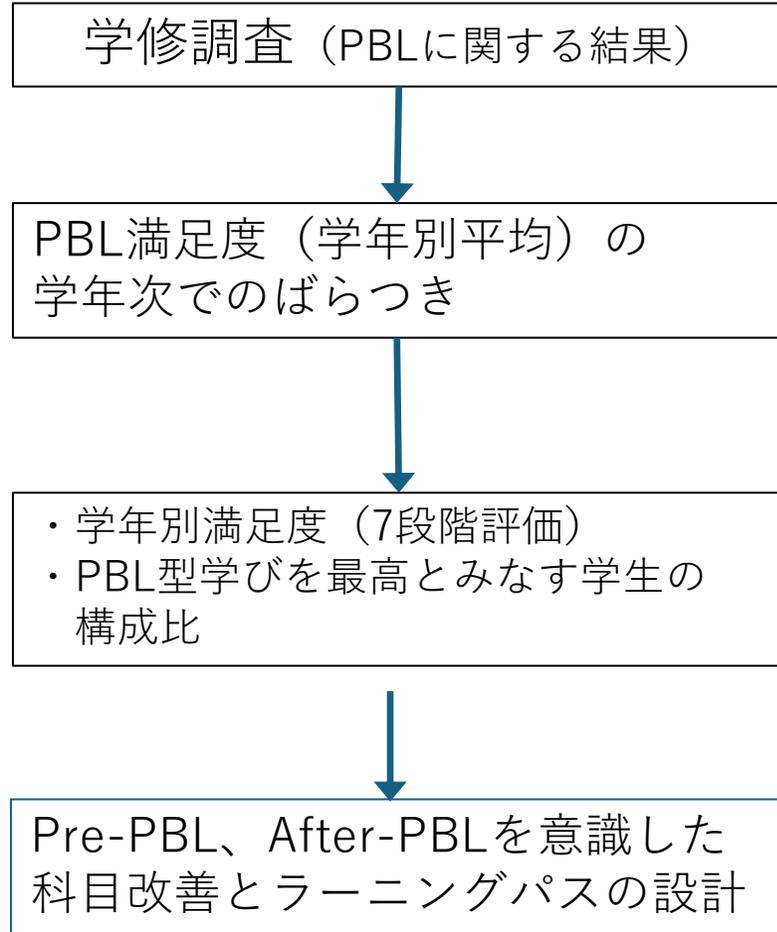
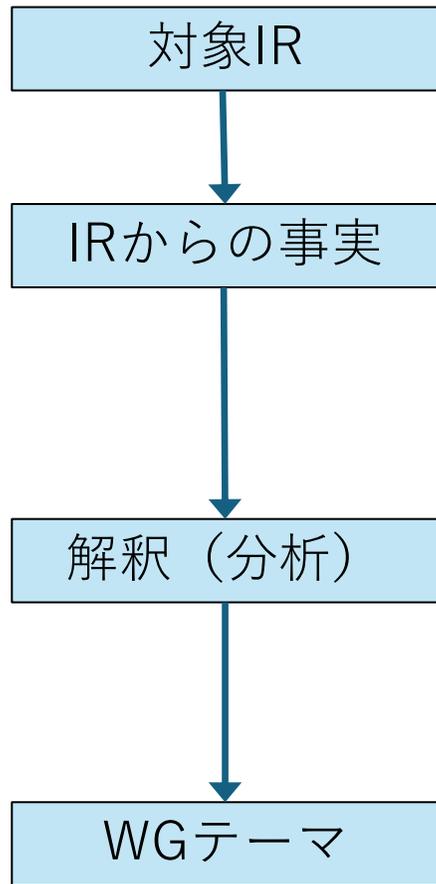
2025年度 FDワーキング・グループテーマ

大分類	概要	テーマNo	テーマ案
教育支援 授業運営	入学前/後の期待度と満足度： C3:入学後微減型、C4:低値安定型、C5:入学後下降型の3層に対する対応策の検討		
		1	「C3,C4,C5層」に対するマクロ視点での対応策の検討(学部・学科カリキュラム等を研究対象とする)
		2	「C3,C4,C5層」に対するミクロ視点での対応策の検討(個別授業改善を対象とする)
		PBL (Project Based Learning) 型学びの深化のために	
		3	Pre-PBL、After-PBLを意識した科目改善とラーニングパスの設計 ～PBLを基点とした総合的な学修成果向上と高次PBL科目の履修促進に向けて～
		合理的配慮が必要な学生への授業運営上のサポート	
	4	合理的配慮対象学生に対しての教職協働の支援体制、および授業における配慮の在り方	
高大接続	社会で要求される数的思考力の強化		
		5	ビジネスパーソンに必要な数的思考力強化・向上のための対応策の検討
大学院	本学大学院における授業外学習のあり方		
		6	大学院)授業外学習の充実化 ～授業外学習の与え方と効果的なフィードバック～

テーマ 3

Pre-PBL、After-PBLを意識した科目改善とラーニングパスの設計

～PBLを基点とした総合的な学修成果向上と高次PBL科目の履修促進に向けて～



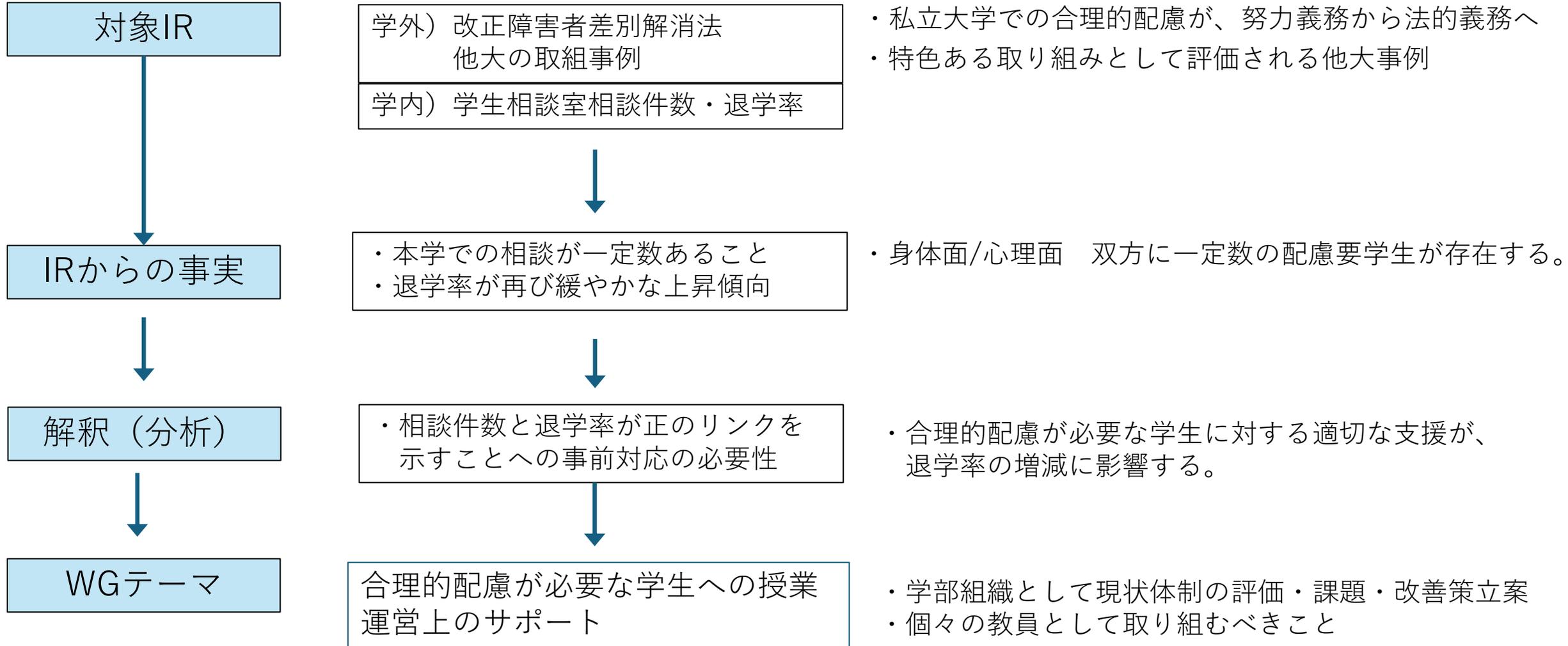
- ・ PBL満足度調査
経年変化状況・満足度平均値・満足度合い
- ・ 経営 : 1年次ピーク、2年次ピークアウト
- ・ マーケ : 2年次ピーク、3年次ピークアウト
- ・ 現マネ : ピーク・ピークアウトの傾向は見られない
- ・ 経営・マーケ : PBLの目標達成に係る限局した学びへの達成感で満足している学生が多い
- ・ 現マネ : 2年次にPBLの価値を認識
→ 3,4年次の専門科目への繋がりが課題
- ・ 経営・マーケ : 理論を補完した科目設計になっているか？
- ・ 現マネ : PBLを起点とした体系的な学びをどのようにナビゲートするか？

注：現マネ = 情報マネジメント学部 現代マネジメント学科
経営 = 経営学部 経営学科
マーケ = 経営学部 マーケティング学科

2025年度 FDワーキング・グループテーマ

大分類	概要	テーマNo	テーマ案
教育支援 授業運営	入学前/後の期待度と満足度： C3:入学後微減型、C4:低値安定型、C5:入学後下降型の3層に対する対応策の検討		
		1	「C3,C4,C5層」に対するマクロ視点での対応策の検討(学部・学科カリキュラム等を研究対象とする)
		2	「C3,C4,C5層」に対するミクロ視点での対応策の検討(個別授業改善を対象とする)
	PBL (Project Based Learning) 型学びの深化のために		
		3	Pre-PBL、After-PBLを意識した科目改善とラーニングパスの設計 ～PBLを基点とした総合的な学修成果向上と高次PBL科目の履修促進に向けて～
	合理的配慮が必要な学生への授業運営上のサポート		
	4	合理的配慮対象学生に対しての教職協働の支援体制、および授業における配慮の在り方	
高大接続	社会で要求される数的思考力の強化		
		5	ビジネスパーソンに必要な数的思考力強化・向上のための対応策の検討
大学院	本学大学院における授業外学習のあり方		
		6	大学院)授業外学習の充実化 ～授業外学習の与え方と効果的なフィードバック～

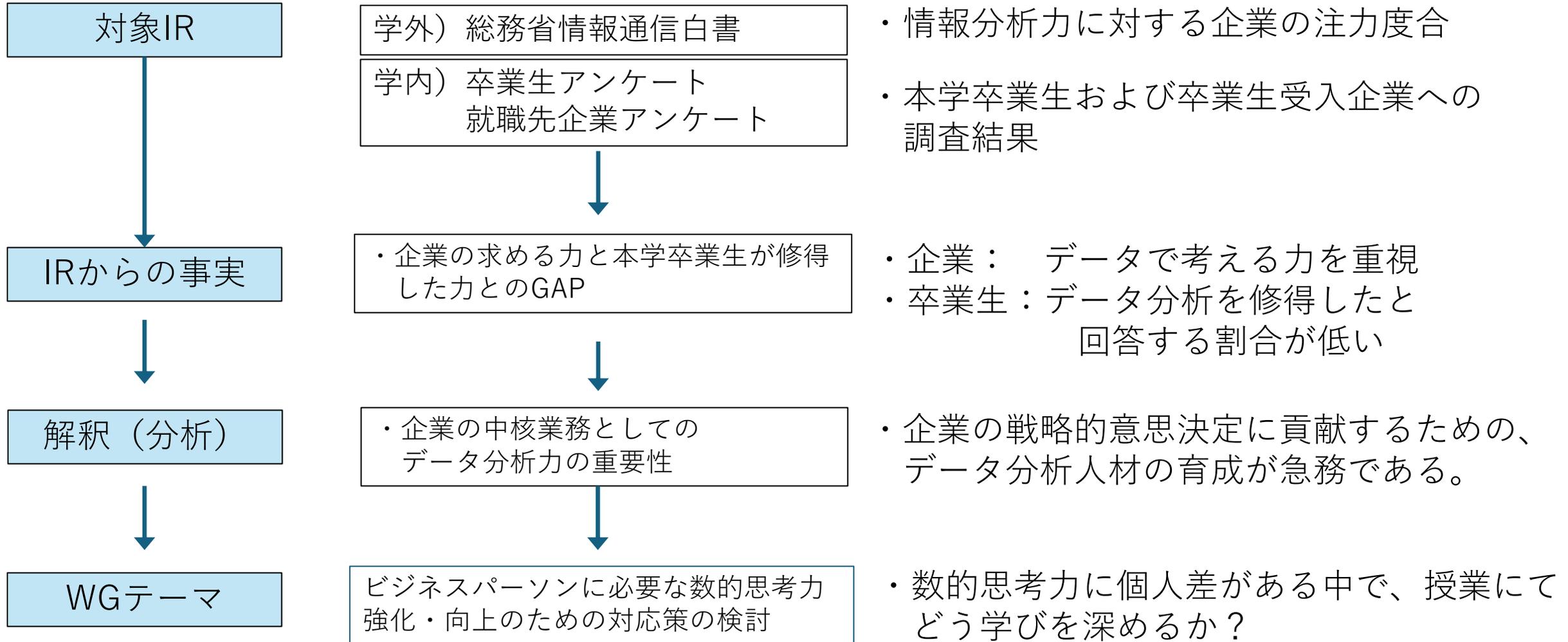
テーマ 4 合理的配慮が必要な学生への授業運営上のサポート ～合理的配慮対象学生対しての教職協働の支援体制、および授業における配慮の在り方～



2025年度 FDワーキング・グループテーマ

大分類	概要	テーマNo	テーマ案
教育支援 授業運営	入学前/後の期待度と満足度： C3:入学後微減型、C4:低値安定型、C5:入学後下降型の3層に対する対応策の検討		
		1	「C3,C4,C5層」に対するマクロ視点での対応策の検討(学部・学科カリキュラム等を研究対象とする)
		2	「C3,C4,C5層」に対するミクロ視点での対応策の検討(個別授業改善を対象とする)
	PBL (Project Based Learning) 型学びの深化のために		
		3	Pre-PBL、After-PBLを意識した科目改善とラーニングパスの設計 ～PBLを基点とした総合的な学修成果向上と高次PBL科目の履修促進に向けて～
	合理的配慮が必要な学生への授業運営上のサポート		
	4	合理的配慮対象学生に対しての教職協働の支援体制、および授業における配慮の在り方	
高大接続	社会で要求される数的思考力の強化		
		5	ビジネスパーソンに必要な数的思考力強化・向上のための対応策の検討
大学院	本学大学院における授業外学習のあり方		
		6	大学院)授業外学習の充実化 ～授業外学習の与え方と効果的なフィードバック～

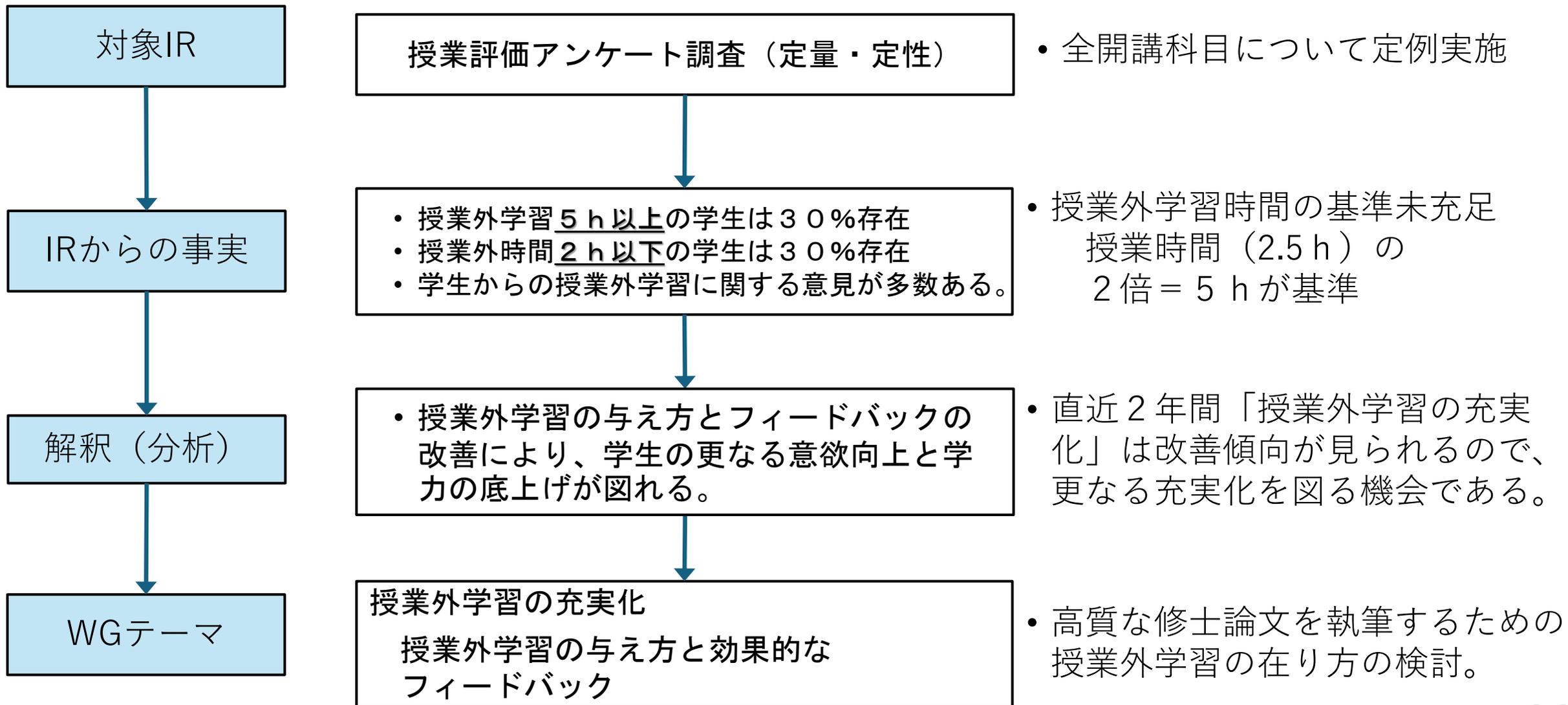
テーマ5 ビジネスパーソンに必要な数的思考力強化・向上のための対応策の検討



2025年度 FDワーキング・グループテーマ

大分類	概要	テーマNo	テーマ案
教育支援 授業運営	入学前/後の期待度と満足度： C3:入学後微減型、C4:低値安定型、C5:入学後下降型の3層に対する対応策の検討		
		1	「C3,C4,C5層」に対するマクロ視点での対応策の検討(学部・学科カリキュラム等を研究対象とする)
		2	「C3,C4,C5層」に対するミクロ視点での対応策の検討(個別授業改善を対象とする)
	PBL (Project Based Learning) 型学びの深化のために		
		3	Pre-PBL、After-PBLを意識した科目改善とラーニングパスの設計 ～PBLを基点とした総合的な学修成果向上と高次PBL科目の履修促進に向けて～
	合理的配慮が必要な学生への授業運営上のサポート		
	4	合理的配慮対象学生に対しての教職協働の支援体制、および授業における配慮の在り方	
高大接続	社会で要求される数的思考力の強化		
		5	ビジネスパーソンに必要な数的思考力強化・向上のための対応策の検討
大学院	本学大学院における授業外学習のあり方		
		6	大学院)授業外学習の充実化 ～授業外学習の与え方と効果的なフィードバック～

テーマ 6 (大学院) 授業外学習の充実化 ～授業外学習の与え方と効果的なフィードバック～



2025年度 FD活動予定（ポイント：学内調整、全教員参加、定期会合、目標明確化）

FD研修会	日程	内容	担当	形式
1	6月初	<ul style="list-style-type: none"> FD WGの進め方: コンセプト説明(松尾) 学修調査・卒業生調査報告 →学修上の課題抽出(小野田) 	<ul style="list-style-type: none"> 教育開発研究所 教育事業推進(委) 	Zoom
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 6/6学修調査・卒業生調査結果を踏まえて、教育事業推進委員会のユニットリーダーが、WGテーマ案を作成→教育開発研で調整 	<ul style="list-style-type: none"> 教育開発研究所 事推ユニットリーダー 	
2	7月初	<ul style="list-style-type: none"> 教員へのWGテーマ案を提示（各ユニットリーダー） 今後のWG編成決定の手順説明（松尾） 	<ul style="list-style-type: none"> 事推ユニットリーダー 教育開発研究所 	Zoom
	～7月末	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が、WGテーマ候補から、希望提出 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員 	
	8月	<ul style="list-style-type: none"> 全教員の希望の集約とグループ分け案とWGリーダー選出 →学長・学部長の承認 	<ul style="list-style-type: none"> 教育開発研究所 教育事業推進(委) 	
3	9月初	<ul style="list-style-type: none"> FDワーキング・グループ(WG)構成 発表（松尾） 	<ul style="list-style-type: none"> 教育開発研究所 	Zoom
4	10月初	<ul style="list-style-type: none"> FDワーキンググループ(WG) キックオフミーティング（詳細テーマと達成目標の合意） 	<ul style="list-style-type: none"> 各WG 	対面
5～8	11月～2月	<ul style="list-style-type: none"> FDワーキンググループ(WG) 個別会合 	<ul style="list-style-type: none"> 各WG 	対面
9	2月26日	<ul style="list-style-type: none"> 公開FD研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 教育開発研究所 主催 	対面 Zoom

IRの実行フェーズへの移行とFDプロセスマネジメント

IRに関する課題認識：

- ① IR調査・分析から実行へのPDCAサイクルを組織的に作ること
- ② IR調査結果に対する全教員の我が事意識の醸成

2025 FDワーキンググループ（WG）テーマ案：

全学テーマ「IRをテーマに、当該データに基づく教育改善策を提案する」

→ディプロマポリシー（DP）に資するものを6テーマ選出→各教員がやりたいテーマを選択

各WGの目標設定の内容・レベルは幅広く認める

- ・提案内容（レベル）は、調査結果の詳細分析から、仮説導出、実効策の提言、実行着手まで幅広く認める。

FDワーキンググループ活動は現在進行中です。

**今年度の成果報告については、2025年度 教育開発研究所年報にて
公開予定（2026年7月発刊予定）**